

県立芸術大学の登り窯を 探検★冒険★見学会

15



「いつもはもっと作品があったりして
汚いけど、今日は片付けちゃった笑」

県立芸術大学より教育実習生として真和志高校
に来てくれた、元クリエイティブアーツコース
の卒業生協力のもと、登り窯見学を実施！！



年に一度の機会とご対面！

この窯焼きは、県芸祭(11/2・3)の陶
器市に向けて行っているそうです。
最大級の登り窯だけに、60時間も燃
やし続け、画像(上)に見える丸太
は、全て燃やす予定だそうです。

4年前にクリエイティブアーツコースを卒業した生徒が、県立芸術大学より教育実習生として2名、9月の前半に真和志高校で実習生活を送っていました。その一人が、県立芸術大学の陶芸を専攻しており、年に一度の登り窯で焼く様子を見たらどうですか？とお誘いがあり、見学会を実施することに。見学に向かったのは、真和志高校クリエイティブアーツコース陶芸専攻の2年生12名。県内最大級の登り窯は、真和志高校の近くにある崎山キャンパスにあります。

今回は、作品を窯の中に入れる「窯詰め」という作業を見学させていただきました。人が何人も入られるほど大きな窯に興奮気味な生徒。実際に入ってみると、「想像していたよりも広かった」と口々にしていました。

大学生が作った作品達をみて、「薄さがレベチ」と作品のレベルの高さに感動。今回案内をしてくださったのは、陶芸専攻の山田教授。「工芸は今見直されている。AIには真似できない魅力が再評価されているから。この魅力に、真和志高校で陶芸を専攻している高校生にも気づいて欲しい。」とお言葉をいただきました。また、高校生からは質問が沢山あったようで、その中でも「一番下の段の窯の上にある小さな突起は何ですか？」という質問に山田教授は、「これは、燃やす前に火の神様にお礼を伝えるため、御神酒を捧げる口だよ」と回答し、「良い質問だったね」とお褒めの言葉をいただきました。最後に、「この貴重な経験を次の制作に活かしたい」とお礼の言葉で締めくくりました。

「これはね、窯で焼くんじゃない。窯と火の神様にね、焼いていただいているんだよ。」